

平成30年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」・「読み解く力」における平均正答率の比較

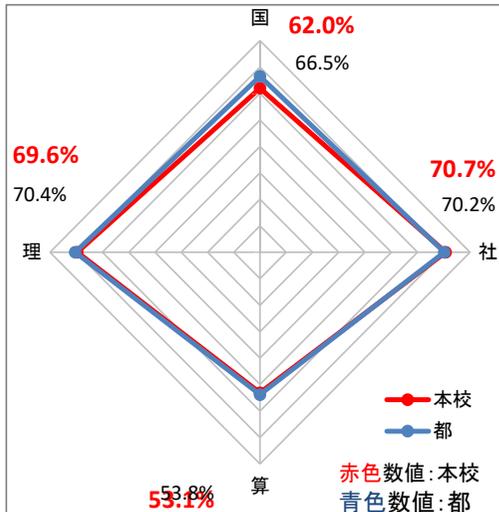
第七葛西小学校

国語	教科の観点						読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	93.3%	81.7%	39.8%	74.6%	55.2%	65.9%	73.1%	69.3%	66.9%	69.8%	66.5%
本校	88.6%	79.5%	40.9%	74.6%	48.2%	61.6%	69.3%	65.9%	58.0%	64.4%	62.0%
都との差	-4.7	-2.2	1.1	-74.6	-7.0	-4.3	-3.8	-3.4	-8.9	-5.4	-4.5

社会	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	87.3%	72.6%	78.3%	62.0%	74.2%	72.0%	53.3%	52.9%	59.4%	70.2%
本校	85.1%	68.6%	83.7%	63.2%	74.4%	69.5%	58.6%	54.6%	60.9%	70.7%
都との差	-2.2	-4.0	5.4	1.2	0.2	-2.5	5.3	1.7	1.5	0.5

算数	教科の観点					読み解く力				全体平均
	関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力	読解平均	
東京都	84.1%	40.7%	65.8%	54.6%	59.0%	53.5%	21.9%	21.1%	32.1%	53.8%
本校	87.9%	41.2%	64.4%	55.4%	58.9%	51.7%	18.4%	17.2%	29.1%	53.1%
都との差	3.8	0.5	-1.4	0.8	-0.1	-1.8	-3.5	-3.9	-3.0	-0.7

理科	教科の観点				読み解く力				全体平均	
	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	教科平均	必要な情報を正確に取り出す力	比較・関連付けて読み取る力	意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力		読解平均
東京都	90.7%	61.8%	64.8%	79.1%	71.5%	72.2%	71.9%	59.1%	67.8%	70.4%
本校	91.5%	64.3%	65.5%	73.9%	71.2%	73.9%	69.9%	65.9%	66.7%	69.6%
都との差	0.8	2.5	0.7	-5.2	-0.3	1.7	-2.0	6.8	-1.1	-0.8



《都との比較にみる本校の状況》

「教科」と「読み解く力」を合わせた全体平均を見ると、社会科、算数科、理科は都の平均と大きな差異はないが、国語科は都の平均を-4.5%と他の教科に比べて大きく下回った。国語科の観点別に見ると「言語についての知識・理解・技能」が-7.0%と都の平均値との差が大きい。この問題における出題のねらいは、文章中の主語と述語の理解や修飾と被修飾との関係の理解である。調査結果から本校の児童は、文章中の主語や述語が何かを適切に読み取ることには課題がある。また、どの言葉を詳しく表しているかの理解も不十分であることが分かる。そのため、文章を読む能力も-4.1%と低い数値を示している。

また、「読み解く力」では、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力が都の平均を8.9%下回っている。観点別の結果が示しているように、長い文章になると、主語と述語の関係が読み取れず、文章の構造が理解できないことから、正しい読みにつながらない傾向にある。

そして何より大きな課題は、国語科の関心・意欲・態度が他の教科と比較した際に大きな開きがあることである。まずは、児童がもっと学びたい、国語科の学習が楽しいと感じる授業の工夫が必要である。

《授業改善のポイント》

主語と述語の係り受けについては、低学年で学習するが、学年に応じて指導の充実を図ることが求められる。主語と述語の関係については特設的に指導することも大切であるが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の指導の中で常に意識させながら繰り返し指導していくことが必要である。そして、各領域を通して様々な文脈に触れることで、主語が省略されていても前後の文脈から読み取る力がついたり、主語が人物、述語が動作といった誤った認識を少なくできたりすると考える。

修飾と被修飾の関係の理解については、

- ・説明的な文章を読む
- ・文学的な文章を読む
- ・作文を推敲する
- ・日常の場面における言葉を見直す

上記のことを通して理解の定着につなげる授業を展開することができると考える。

《家庭・地域への働きかけ》

4月、10月、2月と各学期に1回実施している「家庭学習週間」において、確かな学力の向上に向けて、家庭での学習習慣の確認と児童への啓発を行い、基礎学力の定着を目指す。また、言語活動を高めたいことが学力向上と密接に関わっていることを家庭・地域と共有し、連携を図る。